

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100933		
法人名	有限会社 グッドウィル		
事業所名	グループホーム 武佐の杜		
所在地	北海道釧路市武佐1-9-24		
自己評価作成日	令和4年9月30日	評価結果市町村受理日	令和5年1月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年もコロナ禍の為、地域との交流会も行えず残念です。2ヶ月に1回の運営推進会議には、書面開催ではありませんが、釧路市消防、地域包括支援センター、町内会長、民生委員、他のグループホームの管理者の方にも参加して頂いて、お互いに意見交換をして、参考にさせて頂いています。また、年2回の避難訓練もコロナ禍の影響を受けて、釧路市消防の方々は、ホーム内に入れないとの事で、防災事業所のSシステムの方のみにて日中と夜間想定をして行っています。内部研修は、今迄はとりと合同で行っていたのですが、密を避ける為、個々のホームで月1回行って、職員レベルアップを図っています。外部研修は、コロナ禍の為、研修自体も減少していますが、リモートでの研修には、少ない人数で参加しています。多岐にわたる事柄に対し、広い視野・視点を持ち、御利用者・御家族・地域関係者の方々・職員が常に連携し過ごしやすい環境・関係を作れる様に常に創意工夫しております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0174100933-00&Se
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和4年10月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この事業所は平成17年釧路市武佐地区に2ユニット18名の定員で開設され、「私たちは地域の中で共に生活するパートナーとして意識を共有し信頼できる関係になり、安心、希望、自分らしく、尊重される、自由な生活に努めます。」を理念として総合施設長を中心に地域との関わりや家族との交流を大切し、運営推進会議は近年は書面開催になっていますが、コロナ禍前は利用者家族会役員、地域町内会役員、地域包括支援センター職員、消防署、民生委員、他のグループホーム関係者等多彩な委員で構成され、毎回文書で質問や意見、提案を受けるようにしており、次回に回答し運営の改善やグループホームの理解が得られるように行っています。内部研修は月1回、職員のレベルアップを図っています。また、外部研修は、コロナ禍の為、研修自体も減少していますが、リモートでの研修には、少ない人数でも参加しています。多岐にわたる事柄に対し、広い視野・視点を持ち、利用者・家族・地域関係者の方々・職員が常に連携し過ごしやすい環境・関係を作れる様に常に創意工夫して取り組み楽しく安心して暮らせるよう利用者本位の介護に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者は認知症であっても、地域社会の一員であるという思いを理念にしており、職員会議や研修等で、振り返りを行う事で意識を共有している。	「安心・希望・自分らしく・尊重される・自由な生活」を事業所の理念とし、会議や内部研修などで振り返りながら、利用者中心の介護を実践に出来るよう取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通し町内会長、女性部、地域のボランティアの方々にホーム運営や利用者の生活状況開示し、ご理解ご協力をお願いしている。ホーム行事や避難訓練の参加もあり、地域児童センターや近隣幼稚園の子供達との交流も図っている。(今年度はコロナウィルスの為書面にて開催している。)	町内会長、地域包括支援センター、女性部、地域のボランティアには運営推進会議を通してホームの運営や利用者様の生活状況について開示し、コロナの蔓延防止の観点から注意しながら協力を求めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センターや他施設や病院、個人からの入居等の相談に応じたり、一般の方々の見学希望等に応じている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議では、利用者様の状況報告、事故ひやりはっと報告、行事研修等の経過報告を通して、運営推進委員の方々から意見を頂き、サービス向上に活かしている。(今年度はコロナウィルスの為書面にて意見交換する)	運営推進会議を2ヶ月毎に書面にて開催し、利用者の状況報告、活動報告、事故ヒヤリハット報告が行われ、事業所の理解とサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、必要に応じて、相談、連絡をさせてもらっている。また、釧路市消防支署の方々にも運営推進会議に参加して頂いて、救急の場面等の勉強もさせてもらって、日々のケアに活かせるようにしている。	市担当者とは、書類提出時や必要に応じて情報を提供し共有化を図っています。また、対応、相談を行い協力関係を築くように努めています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のフロア会議では、身体拘束委員会から事案を提示して各職員に考えてもらったり、また、内部研修でも事例検討をして、職員の意識向上に努めている。玄関の施錠は、夜間のみとし、職員皆で統一出来ている。	研修を通じて指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を理解し、内部研修等で不適切な言動や行動抑制についても話し合われており、身体拘束をしないケアを心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と虐待は、ひとつの課題として、常に毎月の会議や内部研修で、議題として取り上げて、各職員の意識を統一してケアが行われる様に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所は、研修を受けて権利擁護の理解に努めている。必要になる方については、市役所に相談し活用に向けて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族等に特にホームでの生活の継続が困難になる場合の説明を十分に行い、納得の上で契約を結ぶように努めている。不明な点については、連絡を頂き常に連携・理解に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの不満苦情については、訴え時しっかり傾聴し、会議でも話し合い解決に努めている。また、家族からの不満苦情等に対してもきちんと受け留め管理者、職員、家族と話し合い、信頼回復に努めている。	来所時や電話で家族からの意見や要望は伺い、利用者からは日常生活の会話の中から汲み取り、会議の中で報告されケアプラン作成に反映し職員間で共有して取り組んでいます。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のフロア会議で職員の意見や提案を聞くようにしている。事業者、総合施設長、管理者は、必要希望時に応じ職員と面談を行い、意見を聞き運営に反映させている。(状況に応じ緊急のカンファレンスも行っている。)	フロア会議は月1回、行われアンケート等で職員の意見や提案を聞くようにしています。また、施設長や管理者は、日頃から必要に応じて職員の意見、要望を聞く機会を持ち反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、総合施設長や管理者やフロアリーダーからの状況報告や、人事考課をもって職員個々の状況を把握して、各自が向上心を持って働ける様、環境及び条件の整備に努めている。(時に面談への参加も積極的に行う。)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は研修を受ける機会を確保しており、総合施設長や管理者は職員の力量に合った研修を受けられる様、勤務調整を行っている。また、その研修を皆と分かち合い、レベルアップ出来る様、毎月勉強会を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、同業者との総合評価、自己評価を行い、また地域包括支援センター主催の地域ケア会議にも参加し、同業者との情報交換や相互訪問をし、サービスの質の向上に取り組んでいる。(今年度は上記書面にて開催や、代表取締役がグループホーム協会の道東ブロック会長に就任し、共有に努めている。)		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階で本人の要望等傾聴し、また家族や本人に関わった事業者や病院当から情報収集し、本人が安心して過ごせる様な関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前相談や入所してからも、細めに本人の状態を家族に伝え、不安、要望等についても傾聴し、安心して生活してもらえる様信頼関係を築ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や家族との話し合いの中で、何が必要なのか、職員間でも協議しながら初期支援計画書を作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の状態や家族との話し合いの中で、何が必要なのか、職員間でも協議しながら初期支援計画書を作成している。出来る事に着目し(洗濯、掃除、調理、縫い物、畑仕事等)職員と一緒にいきいきと生活出来る関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来設時には勿論、遠方の家族についても、お便りや電話で本人の様子を伝えたり、状態変化についても家族と一緒に職員が同行し、共に本人を支えていける様関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人の馴染みの人が来設時には、居室でゆっくり談笑して頂いたり、電話があれば、繋いだりと、関係性が途切れない様に努めている。(今年度は、コロナウィルスの為、ビデオ通話や玄関先で戸を隔てご面会されている。)	コロナ禍の中で家族や知人との交流が思うように出来ない状況にありますが、関係性が途切れないよう努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブル時には、介護員が間に入り関係作りを支援している。また、本人に合った役割を持ち、時には助け合い、支え合える様支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてからも、本人の入院している病院に面会に行ったり、家族共連絡を取ったり、相談を受けたり、また看取らせて頂いた方には、月命日にお参りさせて頂いて、これまでの関係性を大切にしている。状況に応じ相談も含め承っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用して、一人一人の生活歴や暮らし方についての希望を把握出来る様、家族にアセスメントの記入をお願いしている。また、日常の生活の中で本人に寄り添い、希望、意向を把握する様努めている。	センター方式のアセスメントシートを活用して利用者一人ひとりの思いや暮らし方の意向を会話の中で聞き取りし、把握に努めています。また、職員間で情報共有し、本人本位に検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族や関係者等から話を聞き、より多くの情報を得る様に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方を介護日誌や本人の会話から把握し、健康状態を観察検討し過ごし方に活かしている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題、短期、長期目標等を会議で話し合い、本人、家族、職員の意見を取り入れ、本人の現状に即した介護計画を作成する様努めている。	利用者がより良く暮らすための課題と支援のあり方について家族からも思いを聞き、担当者会議で目標を評価をする事で、必要な支援を見極め状況に即した介護計画を作成するよう取り組んでいます。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に概況を記録している。また、申し送りノートや家族対応ノートの他に、引継ぎ時間を設けて、確実な伝達と共有を図っている。また、家族共話し合い、プランを見直している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、要望に応じて、通院同行や外出支援をしている。食事は、嗜好や健康状態に適した献立にする等、配慮に努めている。誤嚥し易い方については、退院前に職員がSTの口腔ケア指導や食事介助を受け、安全に暮らせる様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の清掃活動や行事に参加や、地域の理美容室に行ったり、来設してもらったり、近隣のスーパー、コンビニに職員と一緒にいき、買い物している。(嚴重な感染対策の元)		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に継続受診したり、通院が困難になってきた方については、家族の相談、要望に応じて、ホームの協力医と連携を図り、往診に繋げている。また、通院往診結果は、通院記録を記入し、次回に適切な医療を受けられる様支援している。	利用者、家族の希望するかかりつけ医への受診を基本としているが通院が難しい利用者は協力医の往診をお願いしています。また、受診結果は、通院記録に記入し次回に適切な医療を受けられるように取り組んでいます。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護職員や、訪問看護師、往診医の看護師共連携を図り、適切に健康管理、医療を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、担当病棟に情報提供をして、安心して治療を受けられる様にし、面会し情報収集し、出来るだけ早期に退院出来る様になっている。また、退院近くには、御本人の状態把握して、今後も医療連携出来る様に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、重度化や終末期についてのマニュアル・指針について説明し、意向を確認している。また、段階毎に医師・家族と連携を図って、対応・方針の共有をしてチームで支援出来る様に努めている。	重度化や終末期についての指針により入居時に利用者や家族に説明し、意向を確認しています。また、段階毎に医師・家族と連携を図って、対応・方針の共有をしてチームで支援を行い最善を尽くすことを心掛けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル等の元、急変時の対応方法は掲示してある。AEDも導入し、救急救命講習も各職員随時受ける様にしている。毎月フロア会議にて、質問形式で等、問いかけ様々なケースに対応出来る様に共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的にスプリンクラー、火災報知器通報装置の点検をし、年2回、日中夜間想定火災避難訓練を消防署、地域住民の協力を得て行っている。防災委員会を設けて毎月の職員会議で災害が発生しない様、また発生した場合の対策について、話し合い意識を高めている。	年2回、日中夜間想定火災避難訓練を消防署、地域住民の協力を得て行っています。防災委員会を設けて毎月の職員会議で災害が発生しないよう、発生した場合の対策について、話し合い意識を高めています。また、定期的にスプリンクラー、火災報知器通報装置の点検しています。	自然災害についても意識を高めているので全職員が避難できる方法を身につけることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の個々の人格を尊重した声掛けをし、プライバシーに配慮する様に努めている。	利用者の尊厳を守り、傷つけないよう接し方にも気を付けながら尊敬の念をもって利用者に関わるように努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の日々の言葉を傾聴して、御本人のニーズを理解する様にして、自己決定が出来る様ゆっくりとした働きかけをする様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の個々のペースに合わせて、フロア・居室等自分の過ごしたい所で、日々暮らしていける様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の希望にて、毎月一回の訪問カットを受けられる様に支援している。また、日々の洋服も、自分で出来る方は、御本人に任せて、介助の必要な方については、声かけて好みの物を選んでもらっている。(化粧・毛染め等)		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	御本人の苦手な物は、代替品にて提供し栄養が偏らない様に努めている。また、嚥下状態に応じ安全面に配慮し個々の好みを重視している。食事も職員と一緒に摂っていて、支度についても、茶碗洗い、拭き片付け等、職員と一緒にやっている。	献立は利用者の好みや希望、季節の食材を取り入れた献立となっており、バランスに気を付けながら提供しています。また、食事の準備や後片付けを職員と一緒にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の摂取状況、健康状態の把握に努め、食事量、栄養バランス、嗜好、形態等を考慮し調理を行っている。水分摂取量の少ない方は水分チェックし、一日を通じて摂取出来る様声かけしたり、食事量の少ない時には栄養補助食品等で補っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食前、夕食後(ドクターの指示により毎食後の方も)に口腔ケアを行い、自分で出来る所は行ってもらい、不十分時は一部介助し、清潔にしている。昼食後の口腔ケアも自分で出来る方は、準備し、行ってもらっている。毎食前には、緑茶うがいをしてもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、一人一人の排泄パターンを把握し、時間で誘導したり、本人のサインを見逃さない様にしてトイレ誘導し、排泄の失敗の減少に努めている。夜間覚醒しない方は、オムツ、パットを着用し、定時で交換している。	排泄記録を把握して、利用者の排泄パターンやサインを見逃さず、利用者にあった声掛け、誘導の仕方を行っており、出来るだけトイレでの排泄を支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為水分を多く摂取し、自然排便を促す様、朝食前に牛乳や野菜ジュース、個々にセンナ茶を摂取してもらっている。また、ヨーグルトや野菜を多めに提供したり、体操や部分運動している。排便チェックをし利用者に合わせて下剤を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の好みの温度に調節したり、本人のペースに合わせた入浴時間で、昔話をしたり一緒に歌を唄ったりとリラックスして入れる様にしている。	週2回を基本に利用者の希望や体調に考慮しながら、時間を気にすることなく利用者のタイミングで入浴できるよう行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安を訴える時、夜間眠れない時には、ゆっくり話を聞き安心出来る声掛けをしたり、ホットミルク等摂取してもらい臥床してもらっている。遅くまでテレビを見たいと起きている方には、飲み物を提供し、リラックスして入眠出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表にて、飲み忘れや誤薬がない様努めている。処方薬に変更等があれば、引継ぎノートと服薬ノートに記入し、職員全員で周知出来る様にしている。嚥下状態を把握し服薬が困難な方は、医師に相談し散剤にしたり、ゼリーやココアに混ぜて内服してもらっている。薬についての内部研修を行ったり、薬局との連携も密にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や趣味特技を活かし、出来る事をして楽しんで頂ける様にしている。歌を唄う、パズル、塗り絵、カラオケ、ゲーム、台所仕事を一緒に行う等、日々の会話や昔話の中から本人の好む事や、やってみたい事を見つける様に努めている。今年度は、外出出来る機会が減っているので、レクリエーション等、職員と共に考え、楽しませている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナウィルスの影響で、外出支援は殆ど出来ていないが、ドライブに行ったり、ホーム庭を散歩したり縁側等でお茶を飲んだりと気晴らしをしてもらっている。	今年もコロナ感染予防の為、外出支援は難しいが利用者からの希望に沿って、密を避けるようドライブしたり、ホームの庭を散歩したり、日向ぼっこ等の外気浴を楽しんで気分転換になるよう取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から頂いたお金を本人が所持出来る様に支援している。お金を所持出来る方が少なくなったが、出来る方には、買い物時に本人に財布を持ってもらい、支払い出来る様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族や知り合いから電話が来たら、本人に確認して、電話に出て話してもらったり、手紙が届いたら本人に渡して、必要なら返事を代筆し、やり取り出来る様に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の熱中症予防としてエアコン設置して温度調節している。コロナウィルスだけでなく感染症予防として、ハセツパー水加湿器を稼働させている。また、季節ごとに利用者様と一緒に作品を作って、飾って居心地よく過ごせる様に努めている。	利用者の熱中症予防としてエアコン設置して温度調節しています。コロナウィルスだけでなく感染症予防として、ハセツパー水加湿器を常時稼働させています。また、利用者の作品を飾って楽しく快適に過ごせるように心掛けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有のフロアで気の合う利用者同士が、ソファでくつろいで一緒にテレビを見たり、昔話を過ごしている。一人になりたい利用者は、西側廊下のソファにて外を眺めたり、職員と一緒に話をしたりと、個々に自由に過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居時に家族と相談し、本人の馴染みの物を持ってきて頂いている。本人の大切な人の写真や、思い出の品を置き安心出来る、居心地良く過ごせる様にしている。	入居時には利用者の使い慣れた家具や思い出の品を持参してもらい、家族の写真などを飾り生活習慣が変わる事のないよう安心して過ごせるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、お風呂、廊下等には、手摺りを設置し、また、プレートをつけて場所がわかる様にしている。居室にも名前プレートを掛けている。ナースコールの設置もあり、使用できる方には、必要時に職員を呼ぶ様に声を掛けている。		